

学生目線での国際化

今やほとんどの大学が取り組んでいる、国際化。自学のそれは学生を真に成長させているだろうか。教育の質保証をより確実なものとするために今一度、国際化を学生の視点から問い直したい。

どこまで進んだ？



「グローバル人材」と大学教育への期待

現役大学生に聞く！

社会、そして小中高の教育課程、2つのグローバル化の波に押される形で各大学で教育の改革が進む。しかし、メニューはあっても、利用する学生の視点で企画・設計され、取り組まれていない大学もあるのではないだろうか？

そこで編集部では、グローバル人材教育に関心のある、留学生を交えた現役大学生に協力を仰ぎ、声を聴いてみた。学生の目から見たグローバル化の意義、大学への期待、そして彼らの考える未来像に、まずは耳を傾けてほしい。

取材協力：横浜国立大学*1 YCCCS (英語による次世代型グローバル人材育成プログラム) 所属の留学生および日本人学生チューターの皆さん

グローバルな教育環境に飛び込んだ理由は？

丹生 私は高校生のころから、大学に入ったら海外のいろんな文化を持った人と触れ合おうと決めていたんです。親の転勤で日本各地で暮らすうちに気づいたのは、地域ごとにさまざまな文化や考え方があるということ。「日本国内でもこんなに違うのなら、国レベルならもっと違っておもしろそう」と考え、YCCCSにチューターとして参加しました。

文化の壁にぶち当たって初めて自分に何が必要なのかがわかった

原馬 私はカナダから来ました。日本人の母親が母国で着付けを教えていることもあり、ずっと日本語や日本文化を勉強したいと思っていました。ここを選んだのは、美術、デザイン、ビジネス…と自分が好きな分野をどれも学べるからかな。授業で学ぶだけでなく、日本の文化を体験できるサークルにも入りたいと思っていたけれど、私たちは秋入学でサークルの募集、えーと、welcome week…。

丹生 新歓？

原馬 そう、新歓の時期とされるから、ちよつと難しい。4月になるのを待ちます(笑)。

神保 僕はベネズエラで生まれ育ちました。来日後、フットサルサークルやアルバイトを通して日本人の友達がたくさんできるなど、課外活動は授業と同じくらい勉強になっっています。僕が日本の大学で学ぶ理由は、16年間過ごしてきたベネズエラを助けたいから。*2今のベネズエラの社会情勢は、もしかしたら世界一悪いかもしれない。両親と毎年日本に来るたびに、日本のいいところをベネズエラに

生かせないかと思っていました。ここなら、それを実現するための力を身に付けられるんじゃないかと思って。マッシー(小野)は？

小野 もともと国際的なことに興味があり、学部の授業のほかにも外国人留学生と接する機会をもっと増やしたくて、1年次からチューターに挑戦しました。今年で卒業だけど、異文化に接しながら、トライ&エラーを繰り返せる環境に身を置けたことは大学時代の大きな財産になったと思う。

丹生 私は何かしたいことがあっても、すぐに実行する勇氣を持ってないところが自分の課題です。でも、チューターとして留学生の生活支援をすることが、それを克服するよい訓練になっています。留学生は何に対しても積極的な人が多いので、そのノリについていくとすると自然に積極的になるし、会話の中でも、「こういう表現で合っているのかな」「こういう発言は文化的に問題ないかな」といろいろ不安を抱えながら、勇氣をふりしぼる場面が多々あります。

「グローバル人材」その言葉が指すものは？

小野 チューターになって最初のころは、英語は通じないし、文化の違いもあってもどかしいことも多かったです。グローバル人材の要件の一つとして、日本では「違いを受け入れる」ということがよく言われるけど、実際に外国人と接して、「違いを受け入れなければコミュニケーションが成立しない」ことを体感しないと、なかなかその重要性は伝わらないだろうと実感しました。みんなはグローバル人材ってどういう人だと思う？

神保 グローバルジンザイ？

小野 英語だと Global person、Global leader といった表現になるのかな。

神保 ふーん、日本で言うグローバル人材に当たるのかどうかはわからないけど、僕は今後も国際関係を学び続けて、ベネズエラとアジアとの関係をもっと密にしたい。他国との橋渡しをする人材をめざしているよ。

原馬 カナダでは国籍を複数持つことが可能で、移民も多く受け入れられているので、「さまざまな文化的背景を持った人と接する力が重要だ」と学校で言われることが多い。

*2 かつては原油輸出国として栄えたが2000年ごろから低迷。現在は食料不足、インフレ、治安悪化などにより混乱状況にある。



神保悠樹 ●じんぼゆうき
「日本・ベネズエラ」YCCS 22年
母親が日本人で、父親はアジア人。
0歳児のころから毎年夏休みに来日。16歳から日本に住む。母語はスペイン語。

丹生彩夏 ●にぶあやか
「日本・経済学部1年」
YCCSのチューター。幼少期から英語教室に通っていたが、外国人との交流は大学入学後が初めて。

小野 ●おのまじ
「日本・経済学部4年」
YCCSのチューター。模擬国連サークルでは会議監督を務めたことも。この4月からは金融機関で働く。

原馬杏奈 ●はらまあな
「日本・カナダ」YCCS 1年
日本人の母親から言葉や文化を学び、高校時代に日本留学も経験。今は初の入籍らしを満喫中。

*1 YOKOHAMA Creative-City Studies. 約21か国・地域の45人が英語で異文化コミュニケーションやリーダーシップ、プロジェクト計画などを学ぶ4年間の課程。専攻分野はUrban Cultural Creation(都市文化共創)、UrbanSocial Management(都市社会マネジメント)、Urban Creative Technologies(都市創成技術)の3つ。日本人学生も、チューターとして、また教養教育科目として一部の授業に参加できる。

グローバル化が進めば 世界中の課題や知恵を共有できる！



ベネズエラの課題解決に日本のいいところを役立てたい。

小野 日本人は世界の総人口の2%以下なので、世界を舞台にしたら、相手はほぼ外国人。実際僕はイギリスに留学中、one of themという状況の中で自分の居場所を作ることに苦労して、それを実感しました。平たく言えば日本人にとっては、世界の人々とうまくやる方法を、自分で試行錯誤

しながら見つけることが重要だと思っ

丹生 英語が話せるとか留学経験があるとかではなくて、どこに行っても現地の人と感情を共有できたり信頼を得られたり、関係を「つくる力」がある人って感じではないかしら。

小野 僕が留学したイギリスでは、「グローバル人材」に当たる言葉はあまり聞かなかったけど、「Global Citizenship」という言葉はよく聞いたし、授業科目にもなっていました。地球市民として、地球共通の課題をどうするか、という姿勢を学ぶんです。それと比べると、「日本から世界へ」と言っている日本の教育は、国という単位での発想を抜け切れていないのかもしれない。あくまで「国際（インターナショナル）」であって「グローバル」ではないのじゃないか。

丹生 私は、高校までは語学力をつけることに終始していたので、

大学では海外でのコミュニケーション

シオンを想定して、外国人と関係を作ることについて学んでみたい。授業では留学生とディスカッションを行うことはあるけど、議論するだけでなく、多様な人々との上手な議論のしかたまで学びたいです。

原馬 その点、私は今の環境には満足してるわ。多国籍の学生の中で、みんなはどのように感じているのか、自分のことをわかっただけのためにどう振る舞えばいいのかを考え、実践しなければいけない。こうした経験は、国際社会に出るための準備としてとても役立つと思う。

神保 僕は欲を言えば、企業で働く人と話したり、企業を訪れたり、国際ビジネスの現場がわかる産学連携的な授業があるとうれしいな。

丹生 うちの大学は学生の約1割が外国人留学生です。この環境をもっと生かさない手はないはず。でも、みんながみんな異文化交流に積極的なわけじゃないです。

関係を築く技術、学校でも学べるといいな。



ね。学部の友達に聞くと、留学生と一緒に学べる科目があることは知っていても、科目名が英語だったり、留学生が集まる校舎での授業だったりすると、「ついていけないかも」と履修をためらうみたいなんです。

小野 異文化環境に飛び込む手段として一番手っ取り早いのは留学だろうけど、多くの日本人にとって留学はハードルが高く遠い存在。ただ、何度か海外に行ってみて、日本ほど居心地のいい国はないと思ったのも事実です。実際、留学は面倒で不自由なことも多い。「その苦労をしても留学する」「留学を「自分ごと」と思わせる仕掛けがもっとあってもいいのでは。

2040年の自分は どうなっていますか？

原馬 20年後ね。故郷のカナダ。ビクトリアは、環境はすばらしいけど、仕事が少なく、就職するから家族と離れ、バンクーバーまで行かないと。それなら日本に住んで、今学んでいることを生かしたインテリアデザインの会社を作りたいです。

神保 ベネズエラの状況は、20年ではまだ大きくは改善していかないだろうな。でも、少なくともこれ以上悪くなってほしくない。ベネズエラと日本の関係を強くしようと、少しでもよい方向に導けるように、外交官やグローバル企業で

働いていたいんです。

原馬 私にはもう一つ夢があった。日本人に英語を教えたいの。20年後、英語は今以上に世界共通語になっていると思うので。ただ、今の日本人を見て感じるの、まずは日本語でもいいので、人に何かを表現する練習が必要なんじゃないかってこと。それができないと、例えば仕事の場面で英語を使うときに、英語力とは別の問題でもつまずくと思います。

神保 僕は日本に來てから日本語と同時に英語も学び始めたんだ。そのとき知り合いに「日本では英語は学ばない方がいい」と言われたよ（笑）。だから英語はオンライン授業で独学した。



日本の英語教育をもっと「使える」形に変えたい！

Other International students say...

自分で道を決めてこそグローバル人材では？
Alyssia Rei Brieck ● アリーシア・レイ・ブリック [日本/アメリカ] YCCS1年

私が思うグローバル人材は、自分の進む道を自分で決められる人。大事なのは、誰かが決めた要件に従うことではなく、自分でどういう人になりたいかを考えることではないでしょうか。現在のアメリカは人々の視野が狭くなっていると感じるので、日本をはじめ他国を持つアメリカにない視点を持ち帰りたいです。

多様な外国人との協働により成長実感
Marianna Zalesky ● マリアンナ・ザレウスキー [イギリス] YCCS2年

10代前半に読んだマンガがきっかけで日本語や日本の文化を学ぼうと決めました。YCCSは、世界を変えたいという思いを持っている人のためのプログラム。自分がめざす姿と重なりました。授業はハードですが、多様な出身国の学生と協働できる機会は貴重で、非常によい経験になっていると感じます。

将来は異文化間交渉のサポートを仕事に
Sofie Rath ● ソフィア・ラス [デンマーク] YCCS2年

日本企業でのインターンシップ目的で来日し、英語プログラムのある大学だったので入学しました。マリアンナと同じハンドボールサークルに入り、日本人の友人を増やしています。同じ趣味を持つ人とは仲良くなりやすいですね。将来は、ビジネス現場でのコミュニケーションを円滑にする仕事をしたいです。

異文化の中での試行錯誤の経験は大きな財産です。



て、日本に持って帰ってきたいな。と。グローバル社会のいいところは、世界中のハウツーを共有できるところだと思っから。